

太宰府の文化財 383

弥生人の知恵・木材水漬け遺構

―国分千足町遺跡第4・8次調査

今回は、平成5年度と平成25年度に実施した国分三丁目での発掘調査で見つかった木材の水漬け遺構を紹介します。調査地は四王寺山から御笠川に向かって広がる沖積地に立地しており、遺構が形成される地盤は地下水位が高く、遺構を少し掘り下げると水が湧く状態でした。

調査では、今からおよそ2千年前の弥生時代中期の倉庫と見られる掘立柱建物と、土坑などが確認されました。写真①の土坑(第8次調査)では、直径約130cm、深さ約60cmの穴の中に加工途中の材木(写真②)や、丸太を縦に二分した木材(写真③)などが置かれていました。調査

中もちようど木材が浸るくらいの高さまで水が溜まる状況で、この湧き出る地下水を利用して、木材を水漬けて保管していた土坑だと考えられます。写真④の土坑(第4次調査)では、同様の割材の他に、堅杵や作りかけの匙さじの破片(写真⑤)も出土しました。

り、当時の加工道具の主流であった石器でも、削りやすくなります。今回紹介した水漬け遺構には、伐採直後の粗加工の段階のものから製品に近い段階のものまでが含まれ、この場所で一連の木器製作が行われていた事を示します。調査地の北東では、同時期の円形の住居群が確認されており、この場所が集落における材木加工作業場だったと考えられます。調査によって弥生人たちの生活の知恵や当時の営みを垣間見る貴重な成果を得られました。

文化財課 遠藤 茜



写真① 材木の水漬け遺構



写真② 加工痕のある材木



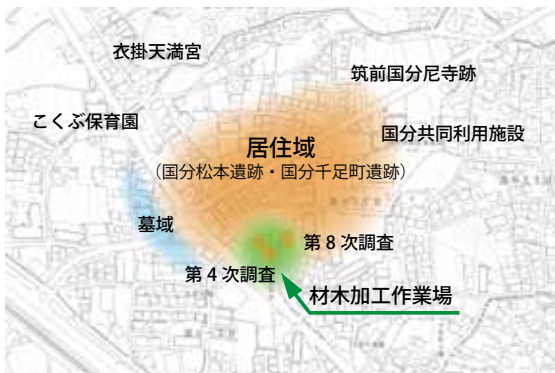
写真③ 縦割りした木材



写真④ 第4次調査の水漬け遺構



写真⑤ 匙未製品



弥生時代中期の国分地区の集落域

今月の市民遺産情報

「隈廬公のお墓」(市民遺産第7号)春まつり開催

日時 4月15日(土)
午前10時過ぎ～(30分程度)

場所 隈廬墓前(朱雀三丁目、榎納骨堂敷地内)